

予備審査会では様々なコメントを頂きましてどうもありがとうございました。審査員の先生方のコメントを基に、1.1 節の概要や各章の冒頭に背景を追記いたしました。また、文中やアルゴリズム内の誤字を修正いたしました。修正点は以下の通りです。

- 1 ページ，最下行：  
尾崎スキームは，近年高速化が盛んに行われている … 注目されている手法である [7, 8].
- 23 ページ，1 行目：  
実対称行列  $A, B \in \mathbb{F}^{n \times n}$  に対し，… を求める際に 3 つの点行列の積の包含が必須となる。
- 23 ページ，2.1 節最後の段落：  
 $A =: A' + \Delta_A, B =: B' + \Delta_B$  とした場合には … 以降では点区間のみを扱う。
- 34 ページ，1 行目：  
1.4 節で紹介した尾崎スキームは … 効率的な計算法 [9, 10, 11] を紹介する
- 35 ページ，1 行目：  
近年，低精度浮動小数点演算の高速化が … 今後の課題とする。
- 36 ページ，最下行：  
また，cuBLAS [82] では … 一般行列積の半分のコストで計算可能である。
- 38 ページ，小小節「BLAS ルーチンの性能」
- 49 ページ，5 行目（第 2 段落冒頭）：  
これまでに Newton 法に基づいた反復改良法が … 本手法では達成可能な精度に限界がある。
- 49 ページ，第 2 段落最後：  
線形方程式については，LAPACK の … ルーチンを創生することに貢献可能である。
- 49 ページ，第 3 段落：  
近年のアーキテクチャでは … 今後も活躍し続けることが期待される。
- 76 ページ，13 行目（第 2 段落最後）：  
荻田・相島法は行列積を … 「行列積の高速性」を活用することができる。